

## がん医療に携わる医療従事者が知っておきたい被曝の話

### 質問&意見

#### <質問>

「情報を理解する能力によっては、誤解を生むような投稿もされている。」というのは？

→例えば、「メディアによって出されている基準値は凄い高い値だから、本当はそれの100分の1であっても、被曝するから気をつけてね」とかいう書き込みがある。医療者の思い込みに対処するためにも、専門職として正確な情報を発信できる力をつける必要があると再認識した。

#### <被曝について>

##### ●化学療法専門医、放射線医

「適切な対処をすれば、安全だ」という。

##### ●実際の医療従事者

「そうはいつでも、何かあっては遅いから怖いから危険だ」

「X線の移送もいや」

「あちこちからでるのだったら、そこに集まるのは危険なんじゃないか？」

「3~4カ月くらい毎に、こういう話が出る。」

「先週、妊娠したので、いつ移動させてくれますか？」

新採用の人に、「抗ガン剤扱いたくない」といわれた。

#### <意見>

「感染症でも、とりあえず隔離しとけと言うような問題がある。」

「施設であれば、抗ガン剤ならば、時間内なら薬剤師がゾーンニングされたところでつくとか、それ以外の時間ならば、ちゃんと必要最低限のことは明文化する。コンセンサスをとる。」

→現場の人に説明しても、「取り扱い方法に注意されるんだったら、いっそ、怖いから触らない」「不安の高い人に、どう説明してもそれを納得させるのは難しい。」

先生「そもそも、そこで働く人たちに安全なのかというところでも。」

「いくら防護しても、という思いはある」

「パーソナリティの問題でもない」

「まったくその人のせいかつというところでもない」

「妊娠可能性なる人、妊娠している人をまったく同じ労働者かというところ、どうかんがえるのか？  
働く女性を支援ということから考えるとそう言えないものもある。」

「医療者であることは全般的にリスク高い」

「その辺のリスク高いのは、中にいると気付かないかも。本人の認知の問題も含めて。リスク認知をどうマネジメントされているのか。」

「夜勤をするとがんになるというエビデンスも出てきている。どう考えていくのか？」